



KIDSDOOR

認定NPO キッズドア

2022年度
キッズドア
インパクトレポート

Ver.2023.11.08

1. 本報告書の目的

すべての子どもが夢や希望を持てる社会へ

キッズドアは2007年の事業開始（2009年NPO法人化）以来、日本の困窮家庭の子どもへの支援に取り組んできました。子どもの学習支援から始まった活動は、コロナの影響や社会環境の変化に合わせて、様々な領域に拡大しています。本報告書は、キッズドアが行なっている事業の全体像を捉え、社会に創出しているインパクトを可視化することを目指しています。

2022年度は、100人超の職員と250人超のアルバイトスタッフ、1384人のボランティアと共に、2030人の子どもへの学習支援や生活支援、居場所の提供、3142世帯の困窮子育て家庭のサポート、129の子ども支援団体のネットワークづくりと3億3200万円の資金提供を行いました。

また、2022年度には調査室を設け、物価高騰で大きな影響を受けている困窮子育て家庭や子どもたちの実態をアンケート調査を通じて炙り出し、積極的な政策提言を行いました。「令和4年度低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金（困窮世帯の子ども一人5万円）」の実現など大きな成果を出しました。

さらに、すべての子どもに支援を広げるべく、制度や法律、国の施策への政策提言を行なっています。

2022年、私たちは「子どもから、未来をひらこう」というスローガンを作り、職員のみならず、寄付者、ボランティア、企業、団体、行政などあらゆるステークホルダーを、子どもが中心の社会を実現する仲間として「キッズドアファミリー」と名付けました。

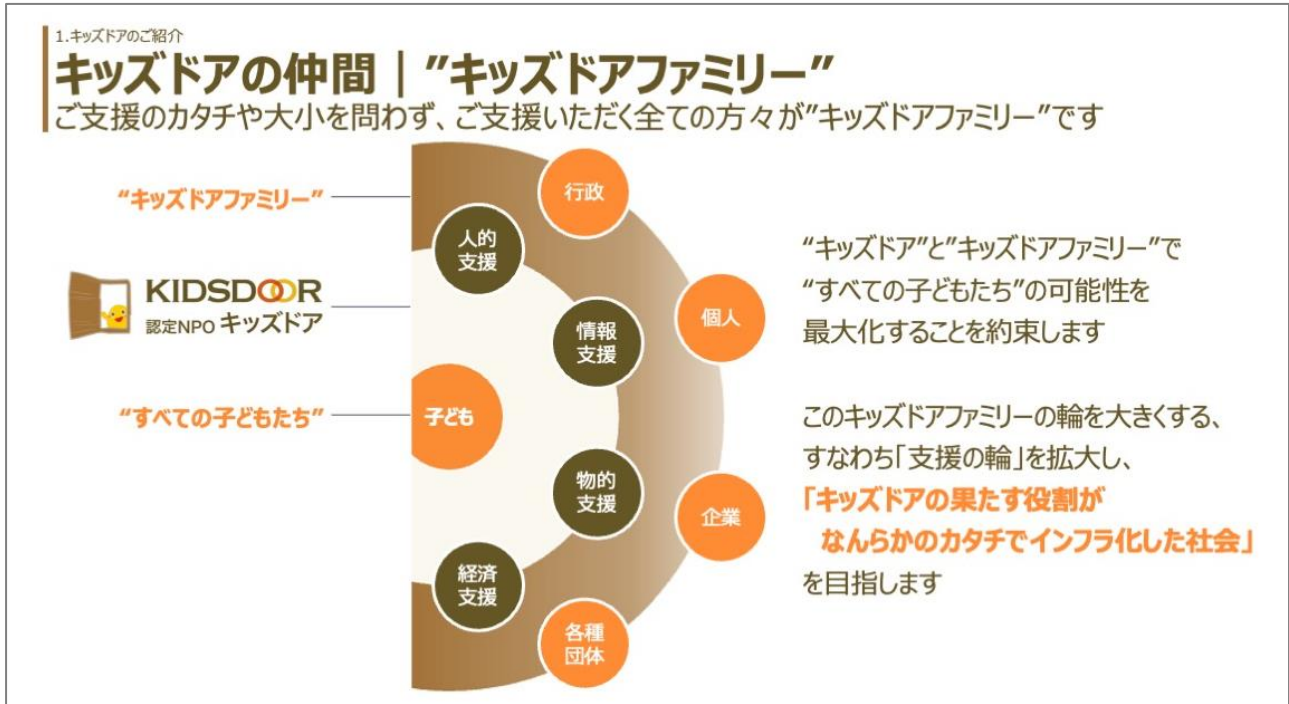
本レポートが、キッズドアファミリーの皆様と成し遂げた2022年のソーシャル・インパクトとして、子どもたちの未来を切り開いた証となれば幸いです。

2023年11月
認定NPO法人キッズドア
理事長 渡辺由美子

「子どもがまんなか」の共助社会へ

キッズドアの活動にご協力いただいた企業や団体は251。2022年度も多くの皆様のご協力により、多様な支援を行うことができました。寄付・プロボノ・物資の提供などが困窮家庭の子どもと家族を支えています。

また、同じ志を持つ日本全国の129団体とのつながりができました。



キッズドアは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

キッズドアは、子どもの貧困や学習支援への取り組みで「目標1 貧困をなくそう」「目標4 質の高い教育をみんなに」、また子どもたちが将来の経済成長の支え手になるよう支援したり、シングルマザーの就労支援を行うことで、「目標8 働きがいも経済成長も」に取り組まれました。持続可能な社会の実現に向けて、今後とも努力をいたします。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1. **本報告書の目的**
2. **社会環境とキッズドアモデル**
 - 2-0. 2022年度のインパクト
 - 2-1. 2022年度の子どもを巡る社会環境
3. **直接的な支援**
 - 3-0. 学習支援・居場所支援事業の全体像
 - 3-1. 活動ダイジェスト
 - 3-2. 学習支援・居場所支援事業
 - 3-2-1. 学習支援・居場所支援事業
 - 3-2-2. 不登校の子どもへの支援
 - 3-2-3. 海外ルーツの子どもへの支援
 - 3-2-4. オンライン学習支援
 - 3-3. 学習支援・居場所支援のインパクトマネジメント
 - 3-4. 体験活動・キャリア教育
 - 3-5. ファミリーサポート事業
 - 3-6. 就労支援事業
 - 3-9. ボランティア
4. **間接的な支援**
 - 4-1. パートナー支援事業
 - 4-2. コレクティブ・インパクト支援
 - 4-3 政策提言
5. **ガバナンス・内部統制の強化**

2. 社会環境とキッズドアモデル

「社会を変える」を実現するキッズドアモデル

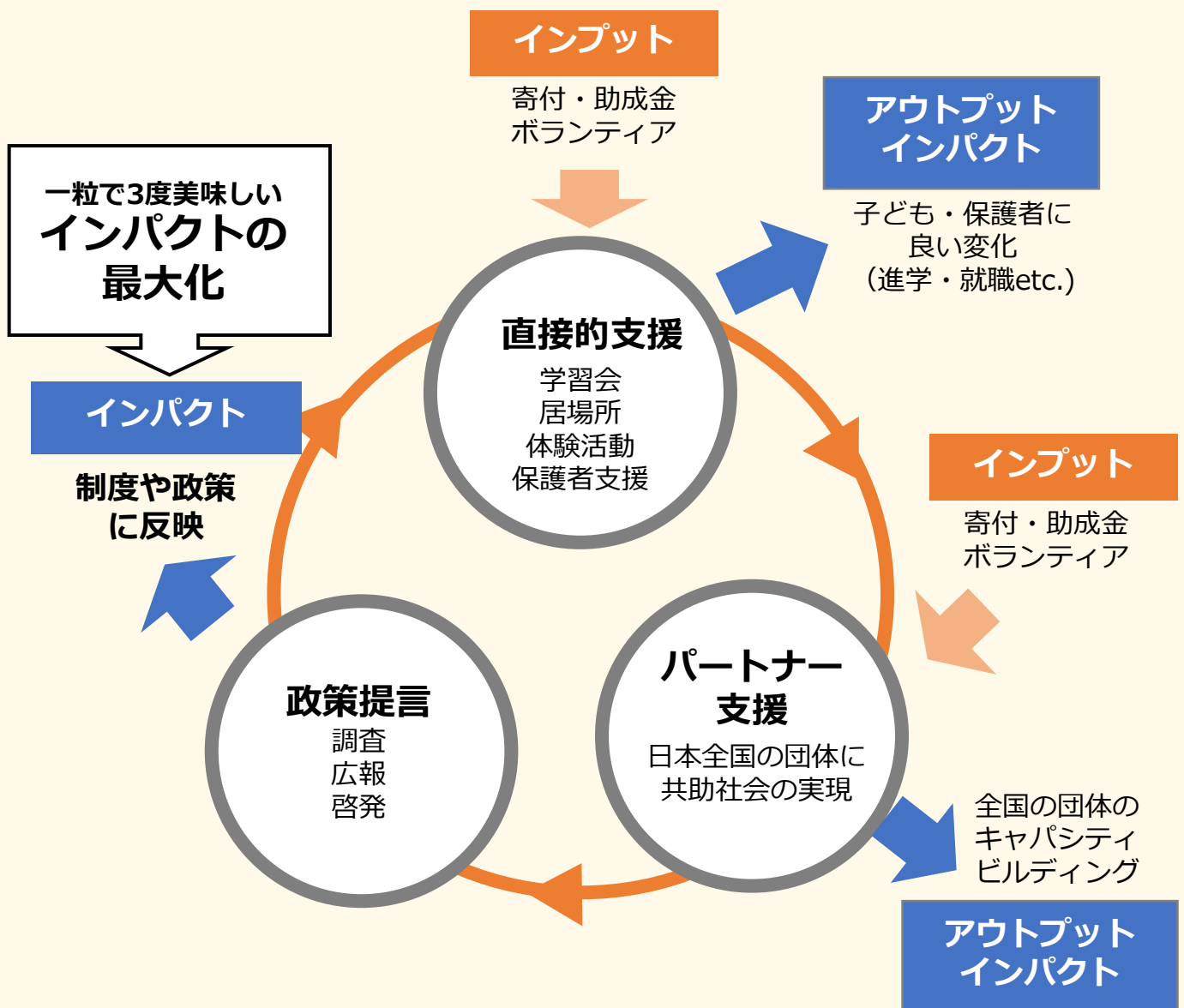
キッズドアでは、無料学習会や居場所の運営、様々な体験活動の提供、また子どもだけでなく、保護者や家庭全体に対しても、生活に必要な食料や物資や情報の提供、就労支援を行っています。

加えて、パートナー支援として子どもの支援に取り組む他団体に研修や助成を行い、また、企業や他団体と協働して事業を拡大しています。

これらの活動やキッズドア独自の調査を通じて見えてきた子どもの貧困の実態や課題を広く社会に発信し、必要な支援について提言することで、子どもを取り巻く環境の改善につなげています。

現場の支援や全国の団体とのつながりを生かし、政策提言で成果を出す、インパクトを最大化する事業モデルを確立しています。

インパクトを最大化するキッズドアモデル



2-0. 2022年度のインパクト

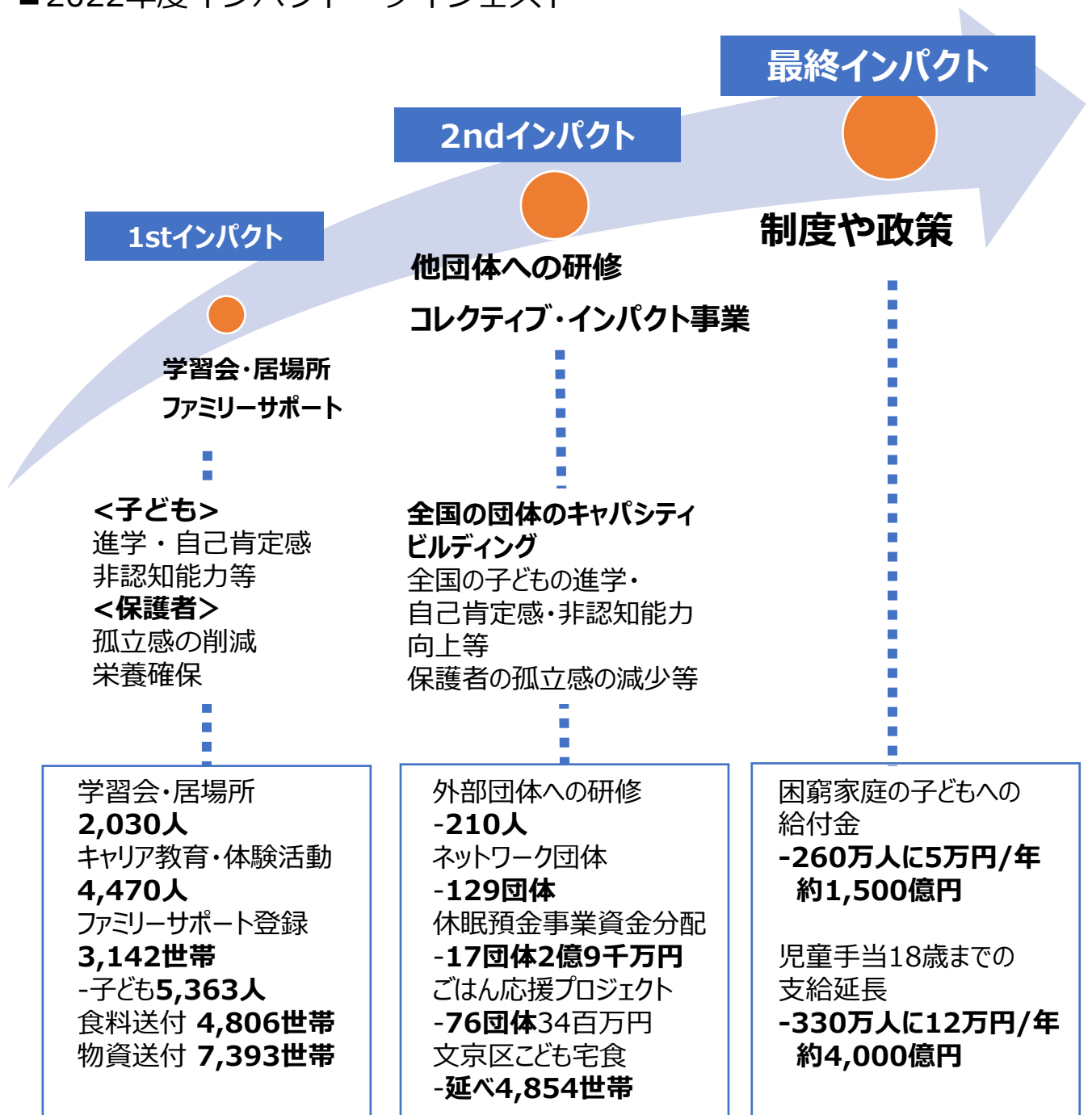
2022年度はあらゆる領域で活動を拡大しました

コロナと物価高騰で子どもも保護者も疲弊をする中、少しでも状況を改善するためにファミリーサポート事業を継続拡大しています。将来の夢を諦めかけている困窮家庭の高校生世代の支援のため、高校生世代へのオンライン学習支援の拡大やキャリア教育、千葉大学と連携してのProject Based Learningの取り組みもスタートしました。

一方、今まで培ってきたノウハウを日本全国の子ども支援団体に提供するとともに、休眠預金の資金分配事業を始めるなど、中間支援団体としての活動も行いました。

不登校や海外にルーツのある子どもたちなど、まさに今後大きくなる課題への対応も着手するなど、新しい取り組みも精力的に開始しました。

■ 2022年度インパクト・ダイジェスト



2-1.2022年の子どもを巡る社会環境

「物価高の中、企業等では賃上げが盛んに行われておりますが、私の母はコロナ禍で仕事を失職し、うつ病になりました。家計は大変苦しく、4月からは私は高校3年生になり、下の弟たちも高1、中2、中1…と入学を控えています。どうか、私たちを早急に助けて下さい!」

コロナ禍で疲弊した困窮子育て家庭に容赦のない物価高騰

これは、私たちが支援した高校生世代（高校生・浪人生・中退した子ども等）に実施したアンケートに寄せられた声です。これは、この家庭だけに起こっていることではありません。「コロナが終われば、この生活の苦しさも終わる」となんとか頑張ってきた家庭に物価高騰が襲い掛かり、最後の糸が切れてしまう家庭が続出しました。

格差は拡大し、家計が苦しい家庭はいよいよ子どもの食事減らさなければならぬような状況でした。コロナ禍の収束が見え始める中で、政府の給付金や民間の支援はほとんど無くなり、困窮子育て家庭の苦しさは忘れられがちでしたが、私たちは社会にその実態を伝え、また困り果てる家庭に食料等を届ける支援を継続しました。

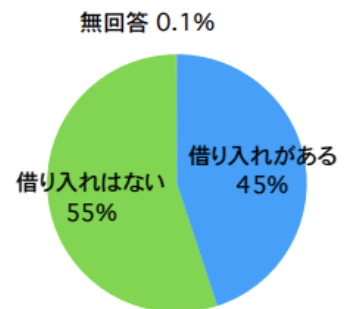
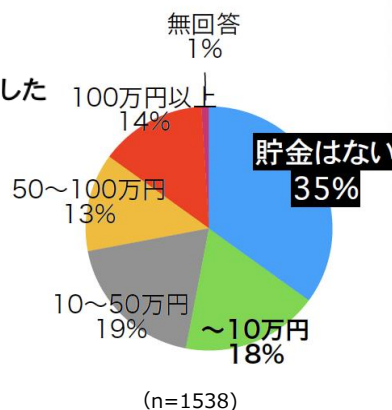
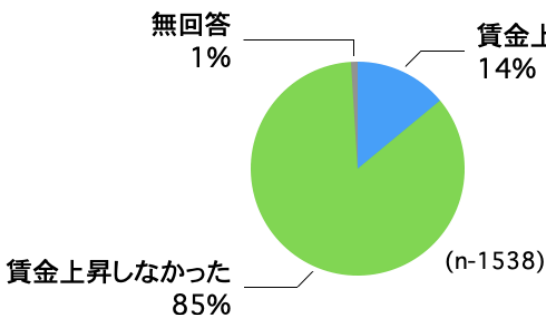
調査では、困窮家庭の高校生の約2割は経済的理由で進路の変更を余儀なくされていることもわかりました。子どもへの深刻な状況は続いており、不登校の急増、子どもの自殺増など課題が噴出しました。また出生数は77万747人と80万人を割り込み、少子化も深刻度を増しました。

【2022年度の5大課題】

1. 減る貯蓄・増える借金、上がらない賃金・戻らない収入

キッズドアがファミリサポート登録者（全国の困窮子育て家庭）を対象に2023年6月に実施した調査では、貯蓄がない家庭が35%、10万円以下が18%でした。さらに45%は借入れがありました。コロナ禍で収入が減った非正規雇用の家庭が、貯金を崩してなんとか生活をしてきたが、それも底をつき、物価高騰で生活が成り立たなくなっています。また同調査では、賃金が上昇した人はわずか14%でした。

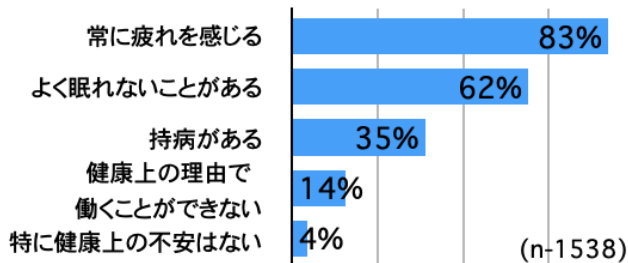
□ 去年の夏と比べた賃金上昇の状況



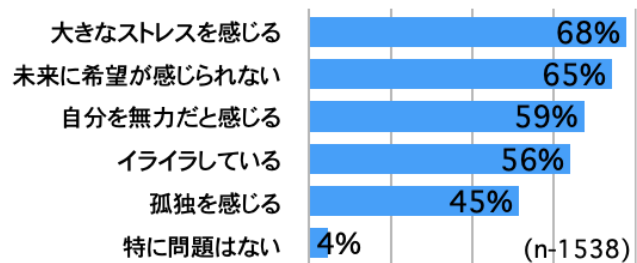
2 危機的状況の保護者の心身の健康

同調査では保護者の健康状態も危機的な状況であることがわかりました。ひとり親家庭では唯一の保護者が倒れることで子どもの生活も不安定になります。子どもがヤングケアラーにならざるを得ない家庭が増えました。

□自身の現在の体調(複数回答)



□自身の現在の気持ち(複数回答)



- 5月の半ばから病気になってしまい、医師から心も体も安静にと言われている為、フルで働く事が難しい状況です。全く働かないと生活ができないので時短で働いていますが、完治までの期間は人それぞれらしく今後の収入や生活面での不安が強いです。
- うつ病で家事を思うように出来ない。一度座ってしまうと体が動かず洗濯物を干したり、お茶碗を片付けることができないので平日の夜や土日に家事手伝いなどのヘルパーさんが入ってくれると助かります。

<高校生世代>

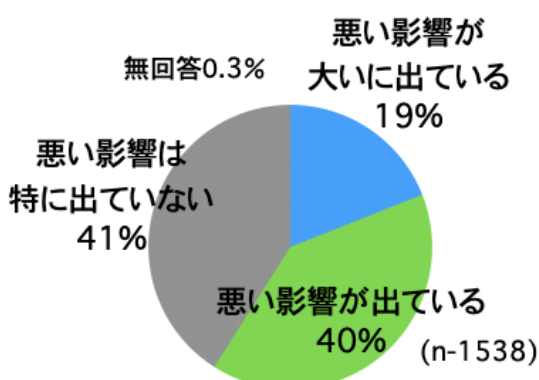
- 一人親の母が難病で起きられない時、誰にも頼れず回復を待つしか出来なかった。諦めた事は辛くて思い出したくない。

3 長期化するコロナによる子どもへの影響と将来を諦める子どもたち

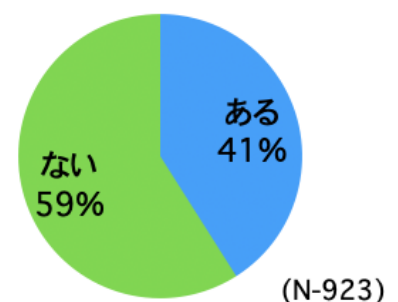
物価高騰は子どもたちへも大きな影響を与えていることがわかりました。必要な栄養が取れていない子どもが6割に上ります。友達と遊びに行くのを減らしているのは4割超、塾や習い事をやめた子どもも25%です。また経済的理由で部活動に影響が出た経験は4割に上っており、喫緊の支援が必要です。

2023年3月の調査では、高校生を持つ家庭の19%が経済的理由で子どもの進路に影響が出ていました。高校生世代へのアンケートからも子どもたちの苦しい生活ぶりが浮き彫りになっています。

□去年の夏と比べた子どもの成長や生活への悪影響



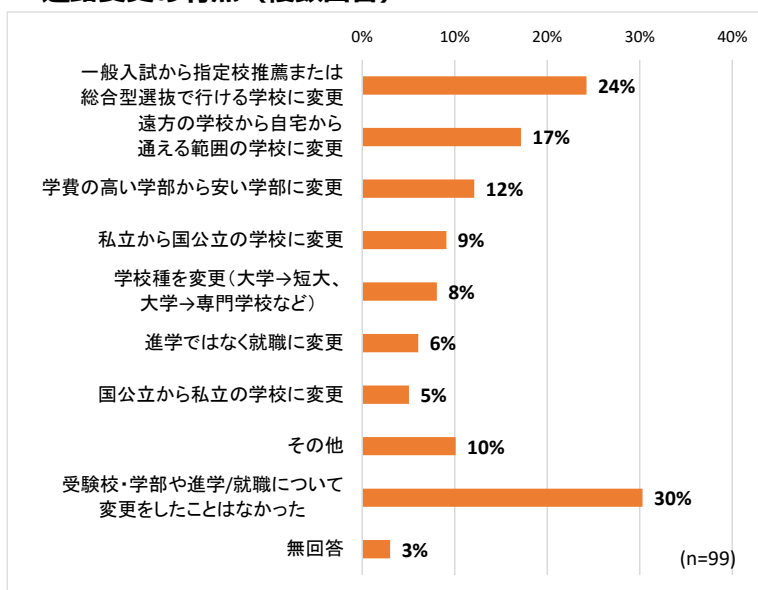
□経済的理由で部活動に影響が出た経験
(中学生または高校生のいる家庭)



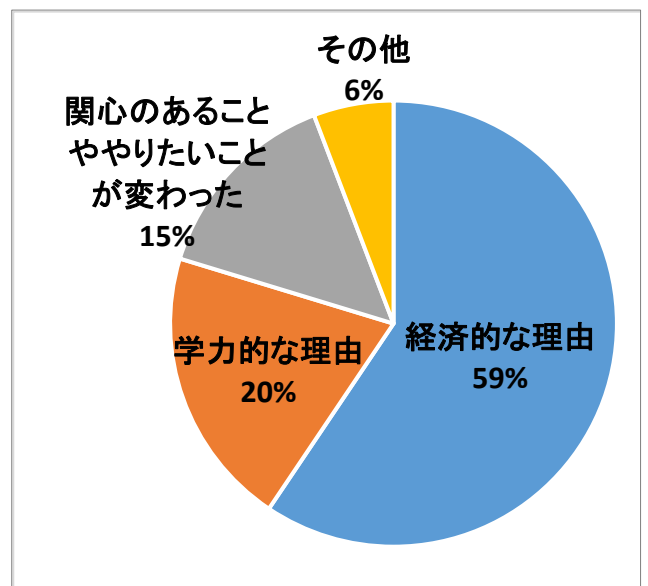
- 子供に部活の道具が欲しいと言われたが、買えない。メガネだと部活に影響するのでコンタクトレンズが欲しいと言われたが高価なので、毎日つけられない。部活を辞めさせようか迷ってます。
- 進学希望でしたが、家計のこと、これから進学でかかるお金のことを考えて就職に変更し、家に給料を入れるねと言ってました。
- 物価高騰で出費が増えたので貯金ができず、進学を諦め就職にきりかえた。まだ下に2人弟妹もいるので。

□キッズドアと繋がっている高校生世代へのアンケート（2023年3月実施）から

■進路変更の有無（複数回答）



■進路変更にもっとも影響した理由

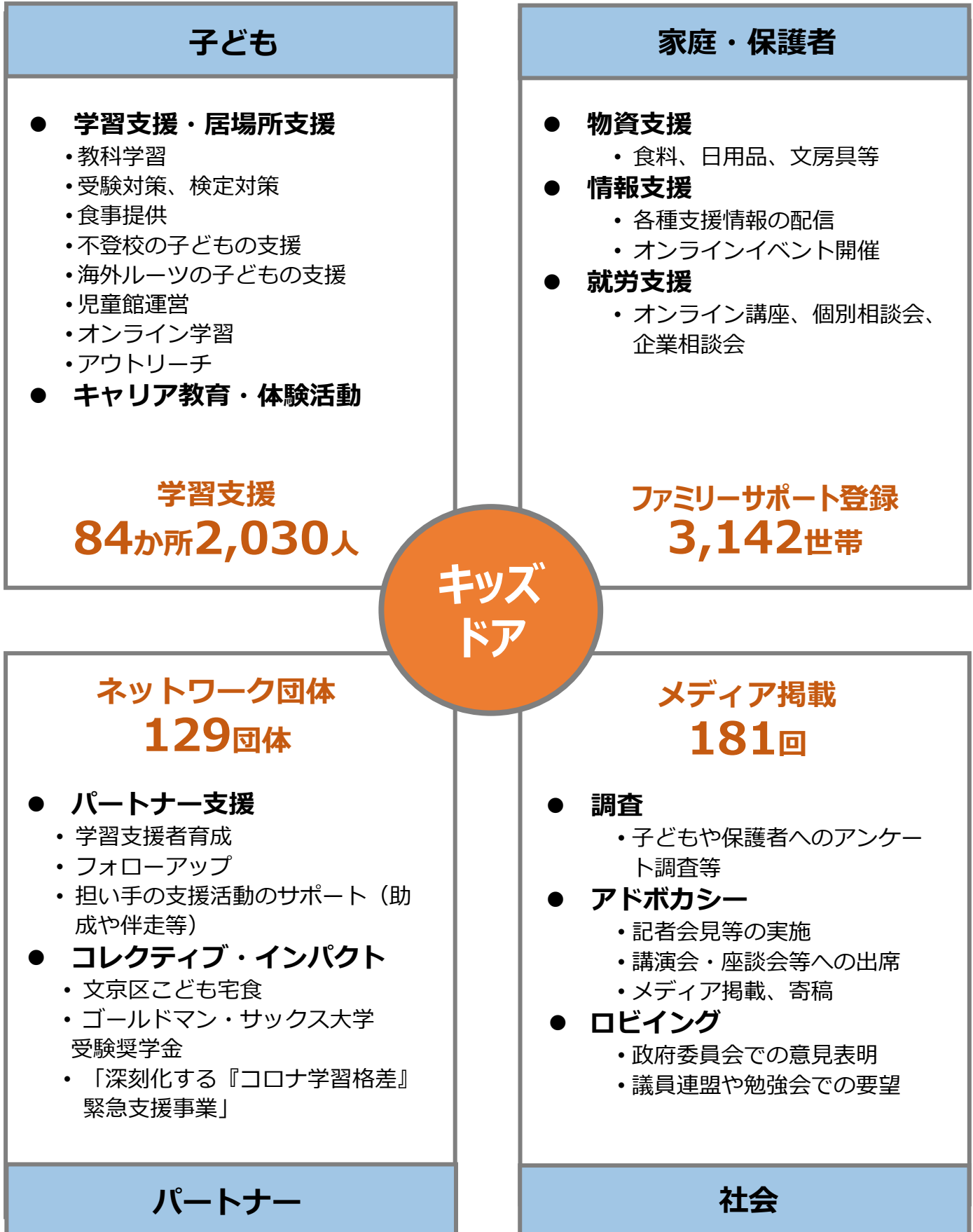


- いろいろな学部チャレンジしたかったがお金がかかるので合格圏内の学校をえらんで支出を控えた。
- 受験料や入学金が高く何校も支払いができなかったため、指定校推薦で受けられる学校を探し、1校だけに絞って受験しました。
- 私立だと学費が高くなってしまいうので、県内の国公立短大に進路を変更した。
- 私立大学を何校か受験したかったが、国公立大学1校に絞り受験した。
- 自宅から通える国立にした。
- 東京への進学は家賃が高すぎて難しかった。
- 理系や医学部は学費以外でもお金がかかりそうだと考えて考えないようにした。
- 下に弟、妹2人いる為経済的に大変になるから諦めた。
- 奨学金を借りて進学しようかと思いましたが多額の借金をかかえるのが怖くて断念しました。
- 学費が払えない。奨学金だけではとても間に合わないため。

3. 直接的な支援

3-0. 学習支援・居場所支援事業の全体像

キッズドアの活動は、①子ども ②家庭・保護者 ③全国の団体や企業 ④社会全体 の4領域に広がっています。



4 不登校・自殺・海外ルーツの子どもの阻害

文部科学省によると、令和4年度の国立、公立、私立の小・中学校の不登校児童生徒数が約29万9千件（過去最多）、うち学校内外で相談を受けていない児童生徒数が約11万4千人（過去最多）、うち90日以上欠席している児童生徒数が約5万9千人（過去最多）でした。

海外にルーツのある子どもも増加しており、親元で暮らす子どもの6.9%(約179万人)は外国人の親と暮らしているという調査結果もあります。親子とも日本語が不自由で、学校や地域に馴染めない場合も多々見られます。

自殺の問題も深刻で、2022年度は小中高生の自殺は514人と過去最多でした。

- 子供が不登校になりました。もっと向き合ってやらないといけないと思いつつも、自分もフルタイムで仕事をするのが精一杯で、いつも見て見ぬふりをしています。フルタイムで働いても月に13万程度しか稼げません。せめてフルタイムで働けば普通に生活出来る世の中になって欲しいです。生きる為だけに仕事をして、終わりのない生活に疲れました。もういっそ死ねたらいいのに、と思います。生きることがつらいです。

<高校生世代>

- 不登校になった ゲームの、オンラインで友達と繋がりがあったが、唯一頑張ってた部活動が、できなくなってやりがいが、わからなくなった。

5 激変する大学受験と体験格差の拡大

社会の変化に合わせ、大学受験も変化しており、今や受験生全体の5割は指定校推薦や総合選抜型入試などの推薦型に変わっています。キッズドアが支援する困窮子育て家庭では、複数校の受験料を払うことが厳しいため、推薦型の受験を選ぶ子どもはさらに多くなります。

推薦型入試では、学校の勉強以外の様々な体験をすることが大変重要ですが、困窮子育て家庭では、そのような体験活動をすることも難しく、推薦型入試でも不利になりがちです。

<高校生世代>

- お金がかかることはしたくないので、高校に入ってから友達と遊ぶのも避けたいので友達自体作ってない。
- 夏休みも友達と出かけるはずだったのに コロナで行けなかったしお金もかかるから諦めた。
- 海外留学をしてみたかったが、経済的な問題でできない。
- 大学進学するお金が必要だったため修学旅行は行かなかった。
- 学校の行事が無くなってしまった。修学旅行に行きたかった。文化祭も経験してみたかった。

3-1. 活動ダイジェスト

【2022年度の活動ポイント】

1 高校生世代支援の強化

学習支援（居場所支援含む）では、団体創設以来初めて、中学生より高校生世代が多くなりました。地方で高校生支援に取り組む団体は少ないため、オンラインによる学習支援やキャリア教育など日本全国の高校生世代へ支援の輪を広げました。

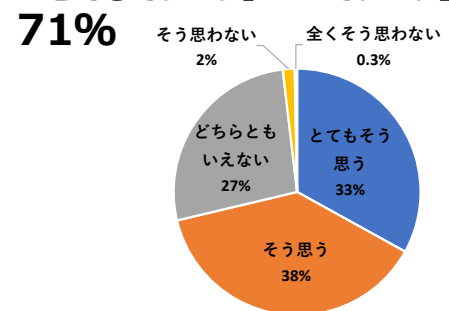
学習会・居場所の生徒数



2 コロナ禍と物価高騰で困り果てる家庭への支援継続

コロナが日常となり、国や民間団体の支援が少なくなる中、ファミリーサポートでは食料支援や情報支援、就労支援を拡大しました。実態を調査し、記者会見やロビイング等で、子ども一人5万円の給付金支給にも繋がりました。ファミリーサポートのインパクト調査では、母親の孤立感の解消などにも大きく寄与していることがわかりました。

登録してから自身により変化があった「とてもそう思う」・「そう思う」



3 新しい取り組み 体験格差の解消・PBL

企業との連携を進め、小さなイベントからキャリア教育やIT&デザインプログラムなどのPBL(Project Based Learning)まで、多様な体験の機会を提供しました。

体験活動・キャリア教育プログラム

総実施回数 262回

総参加人数 4,470人



3-2-1. 学習支援・居場所支援事業

コロナによる活動制約が低減され、活動は順調に拡大しました

キッズドアでは、支援が難しく、まだまだ担い手が少ない高校生世代（高校生、高校中退、浪人等）の支援を拡大しています。2022年は、中学生と高校生の支援者数が逆転し、高校生世代が最も多い層になりました。

支援した子どもの数

総数 **2,030** (対前年118%)

小学生 237人 (対前年127%)

中学生862人 (対前年110%)

高校生世代931人 (対前年118%)

年間学習会開催回数 **6,688**回 (対前年136%)

学習支援・居場所支援時間数 延べ **21,315**時間

学習支援 9,208時間・居場所支援 12,107時間

学習会・居場所拠点数 **84**か所(対前年133%)

学習会や居場所での食事の提供が復活。食料配布が大人気

食事支援も再開することができ、毎回食事を提供する居場所型の拠点数が増えました。お料理ボランティアさんの参加も増えました。

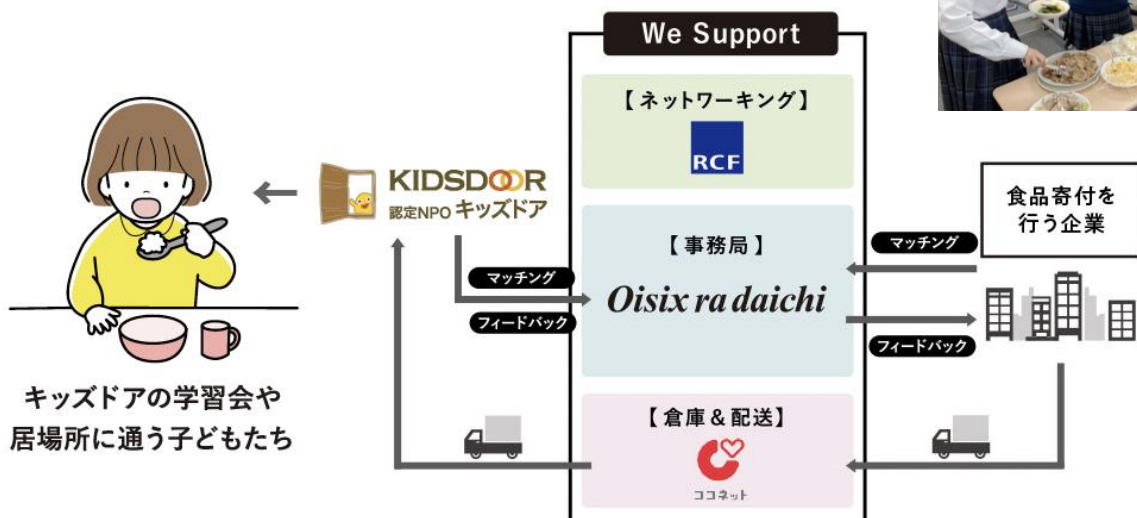
企業等から寄贈された食品を配布するなど、食の支援が重要になっています。We Supportという食支援のネットワークに加えていただいたり、厚生労働省の「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業等」で学習会や居場所の食支援も充実しました。

食事を提供している拠点数 **11**か所 (全体の17%)

食事提供回数 **1,334**回 食事提供人数 延べ **8,819**人

企業等からのご寄付による食料配布 延べ **3,750**人

配布拠点数 延べ 125か所・実施回数 9回



4 課題への対応 不登校と海外にルーツのある子どもへの支援

不登校の子どもだけが来る3つの事業に加えて、多くの学習会や居場所でも不登校や不登校傾向の子どもが増えました。心理士資格を持つスタッフで構成された心理士チームが、担当事業の枠を超えて不登校等の子どもへの対応などにアドバイスする体制を作りました。

また、海外にルーツのある子どもを入り口にご家庭と繋がって、家庭を包括的に支援するモデル事業「キッズドア国際交流センター（KICC）」を開設しました。

支援した不登校の生徒数 **146人**
 不登校の生徒がいる拠点数 **33か所**
 不登校対象の居場所の開催回数 **14か所**
 特別なサポートをしている拠点数 **16か所**
 学校の出席に認められる拠点数 **2か所**



KICC（東京都足立区竹の塚）

5 全国の子ども支援団体との連携強化

日本全国の団体への研修の提供に加え現地での報告会などを実施しました。さらに、休眠預金の資金分配団体や、厚生労働省の子ども食堂等の支援を行う補助金を獲得し、地域の団体に提供する中間支援団体の活動も開始しました。これらの団体とはネットワーク形成も行いました。

パートナー支援事業	資金分配事業
<p>ネットワーク団体数 129団体 研修に参加した人数 210人 新たな「担い手」「ボランティア」 養成人数 延べ 779人 (2020年～2023年3月)</p>	<p><休眠預金—資金分配事業> 深刻化する『コロナ学習格差』緊急支援事業 採択数 17団体 助成総額 297,500,000円</p> <p><厚生労働省> ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業 採択数 76団体 助成総額 34,598,000円 支援食事数 63,888食</p>

6 ガバナンス・内部統制の強化

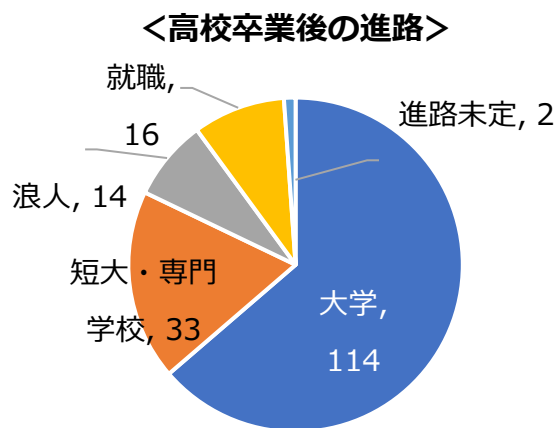
外部への説明責任を果たし、信頼を獲得するため、内部監査室の設置、リスク外部評価の実施、リスクマネジメント委員会・コンプライアンス委員会の設置など、ガバナンス及び内部統制の強化に努めました。

きめ細やかな学習指導で受験をアシスト

高校入試も大学入試も大きく変化する中で、学校の平常点の確保、英検受験など日々の学習やテスト対策を実施しました。

保護者との面談にも力を入れ、親子が安心して学習会に参加できるように努めました。

高校卒業後の進路では、進路未定の子どもへの支援を行い、進学、就職などしっかりと自分の選んだ道を歩んでいけることを目指しています。



保護者との面談の実施回数 1,019回

受験対策講座に参加した人	延べ 3,595人
定期テスト等の対策講座に参加した人数	延べ 4,024人
英検の対策講座に参加した人数	延べ 58人
検定等の対策講座（英検を除く）に参加した人数	延べ 121人

- 分からないところを丁寧に教えていただきありがとうございました。また、将来のことについても話を聞いてくださりありがとうございました。合格できたのは本当に皆さんのおかげだと思います！ありがとうございました！
- いつも応援していただきありがとうございました！面接練習や受験勉強に付き合っただきありがとうございました。
- 進路のアドバイスや医療の仕事のとても参考になる貴重な話が聞けて、これからの進路や気持ちの支えになっています。ありがとうございます！
- スタッフの方々に、英語の独力では解決しづらい疑問点を丁寧に教えていただけてとてもありがたいです。進路選択について、通信制大学の存在を教えていただき、それまでより視野を広く持てるようになった事がよかったですと感じています。

出向く支援「アウトリーチ」にも取り組みました

キッズドアでは、ご家庭を訪問して一緒に勉強したりお話をするような家庭訪問型の支援も行いました。また、家庭ではなく、高校を定期的に訪問して生徒の勉強をサポートする事業も行いました。

アウトリーチ型の学習支援 6か所

活動形態
活動頻度

家庭訪問型/学校訪問型
月1回～4回

3-2-2. 不登校の子どもへの支援

不登校の子どもへの取り組みが増えました

増加傾向であった不登校の子どもは、コロナ禍に急増し、大きな社会課題となっています。キッズドアの学習会や居場所支援事業でも、不登校や不登校傾向の子どもをお預かりすることが増えています。

また教育委員会と連携し、居場所の空き時間などを使って、平日の昼間に、不登校の子どもを対象を絞った学習会や居場所の運営も行なっています。

不登校の生徒数 **146人**

不登校の生徒がいる拠点数 **33か所**

不登校対象の居場所の開催回数 **14か所**

特別なサポートをしている拠点数 **16か所**

学校の出席に認められる拠点数 **2か所**

不登校の子どものみを対象とした学習会や居場所

東京**3**か所・仙台**1**か所

キッズポートあやせ・キッズポートやざいけ

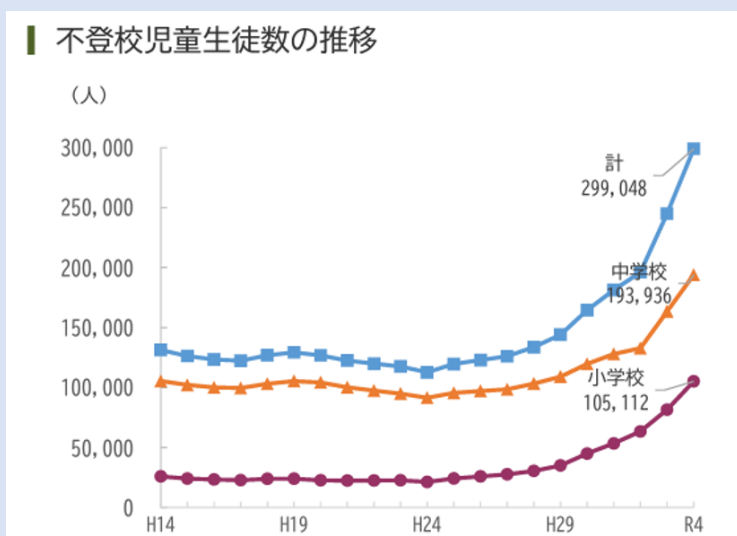
共育プラザ中央ユースサポート・キッズドア仙台HOPPER

- ・ 不登校で負い目があったけど、走るとまではいかないけど、ゆっくり進めるようになった。
- ・ 今はここに来てるから不登校だけど不登校じゃない。
- ・ 話す人が増えた。
- ・ コミュニケーションができるようになった。

<保護者>

- ・ 中学で不登校だったため、とてもお世話になり、高校受験を乗り越えられたのは学習会のおかげでした。高校になってからまだ参加していませんが、学習会があることが心の安定に繋がってる気がします。いつでも相談できるからという安心感が助かっています。

参考



「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」(文科省)

3-2-3. 海外ルーツの子どもへの支援

海外にルーツのある子どもの支援も増えています

海外にルーツのある子どもとの関わりも増える中、東京都足立区で、日本語指導を行うグローバル事業や、子どもへの体験活動や居場所、プレスクール、そして保護者の支援等を行うKICC（キッズドア国際交流センター）を開所しました。

また日本の学校文化を知らない海外ルーツの保護者のために、海外ルーツ子育て家庭のための学校情報サービス「ことこと」を、みてね基金の支援で実施しました。

海外ルーツの子どもへの取り組み

支援をした海外ルーツの子ども **146人**

海外ルーツの子どもがいる教室数 **33教室**

海外ルーツの子どもを対象とした学習会・居場所の開催回数 **258回**



- いつも外国人に日本語をおしえてありがとうございます。
- ここ学校の先生ありがとうございます。みんなやさしいと思う。私はわからないところをおしえて、わかるになりました。ここ全部の先生はいいな先生、やさしいな先生、にしゅうかんありがとうございます。みんなおつかれさまでした。
- I want to thank everyone who has taught and help me get to where I am today. I've gotten along with many people and made a lot of friends here. My experiences here have given my life more joy than anything and I greatly appreciate it. I hope to continue to look forward to studying here and spend more time with everyone. Thank you!

知見を日本全国の困っている海外ルーツのご家族へ

日本の小学校の行事や提出する書類等は、海外の方にとっては大変特殊で複雑です。みてね基金の支援で、日本の学校の事情をわかりやすく、「やさしい日本語・英語・中国語」の3言語で説明するサイト「ことこと」を開発し、運営しています。



海外ルーツのご家庭のための情報支援サービス「ことこと」

開設以来のページビュー 25,800
 ことことユーザー数 4,924人
 ことことコンテンツ数 約300本
 ことことイベント出展回数 3回
 メディア掲載回数 3回（新聞・雑誌）



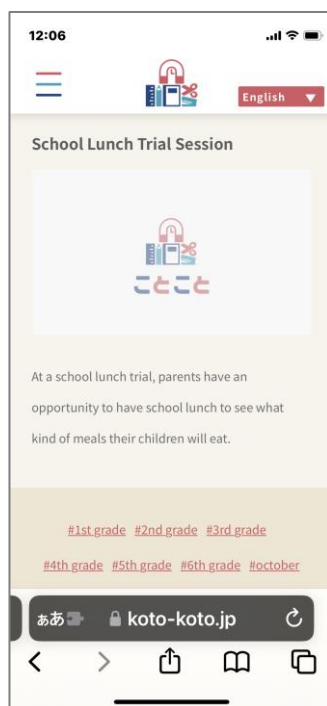
<https://koto-koto.jp/>



*キッズデザイン賞受賞
2023



【やさしい日本語】



【英語】



【中国語】

3-2-4. オンライン学習支援

日本全国に学習支援が広がりました

コロナ禍で、窮余の作として始めたオンライン学習支援は、すっかり定着しました。対面の学習会では、悪天候や学校行事などで会場に来られない子どもへの代替えや補助的な位置付けで取り入れました。

さらに、English Drive Onlineや キッズドア学園高等部（大学受験対策）のオンライン等のオンラインのみの取り組みも6事業になりました。オンラインの取り組みにより、2022年度には、キッズドアが直接指導をする子どもが47都道府県すべてに在るようになりました。

家庭にPCやタブレット、インターネット環境（WiFi）がない家庭には、無料での貸出しも行いました。

オンライン学習支援を実施した教室等

拠点数 **25**か所

参加人数 **436**人

wi-fi機器を提供した人数 **76**人

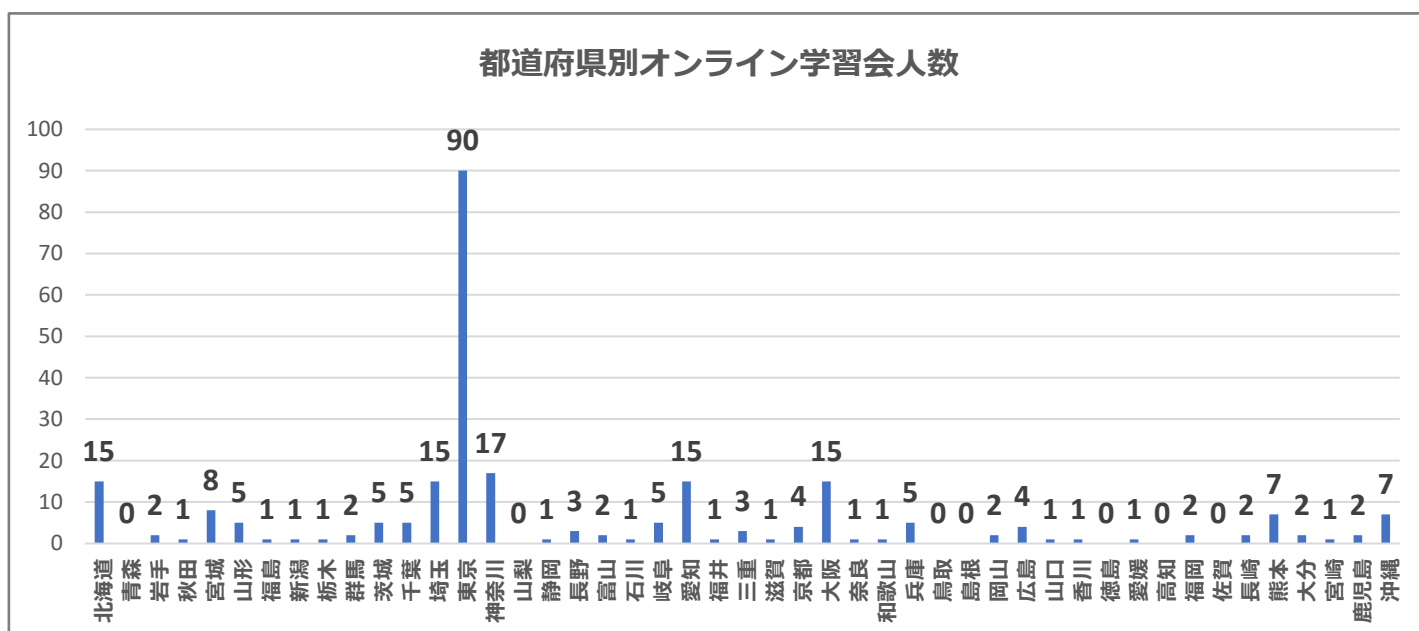
タイプ別のオンライン学習支援の数

対面の学習会がメインでオンラインは代替または補助 **11**か所

対面の学習会とオンライン、どちらも同等の位置づけ **3**か所

オンラインの授業のみ実施（対面での支援は実施していない） **6**か所

都道府県別オンライン学習会人数



3-3. 学習支援・居場所支援のインパクトマネジメント

子どもたちの成長を支えるために事業評価に取り組みました

キッズドアは、学習会や居場所の支援を通して、単に偏差値を上げたり、受験で合格を勝ち取るためではなく、子どもたちが自信を持って社会に出ていける成長を促すことを目指しています。そのために2019年より、ロジックモデルに基づき、社会的インパクト評価を行なっています。

2022年度も、子どもたちの「考え方や行動」の変化と、「学習会での経験」についてロジックモデルアンケートを実施し、良い成果を得ることができました。生徒からの自由記述フィードバックも大変高いものでした。

【考え方や行動】

高出席率の生徒には顕著な良い変化

私たちは、学習会や居場所への出席率を重要な指標とし、出席率を上げるために、こまめな保護者への連絡やフォロー、ミニイベントの実施などを行っています。

2022年度のロジックモデルアンケート調査の考え方や行動の変化を見る指標では、出席率の高い生徒（「ほぼ毎回出席」または「数回に1回程度欠席」）と低い生徒（「数回に1回出席」または「ほぼ毎回欠席」）での比較を行いました。その結果、高出席率の生徒には、1年間で大きな良い変化が出ており、学習会の有効性が読み取れました。また全体でも、全ての項目で70ポイントを超えており、特に「頑張れば報われると思うようになる」87.4、「他人との信頼関係を築く」では85.8、「成功を体験する」83.0 となっています。

高出席率 低出席率

今回	前回の差 高出席率 (n=307)	前回の差 低出席率 (n=61)	アンケート項目	0%	25%	50%	75%	100%
87.4			(中)頑張れば報われると思うようになる	0%				
87.4	+1.8	-5.3	学習に関して、頑張れば良い結果につながると感じますか。	420		220	50	
83.3			(中)学校で頑張るようになる					
85.8	+0.7	-0.8	勉強を頑張りたいと思いますか。	388		247	46	
80.9	+0.2	-9.8	宿題・提出物を忘れずに提出できていますか。	341		221	102	
83.0			(中)成功を体験する					
83.0	+3.4	+0.4	学習にかんじて、できるようになった（成長した）と感じることはどれくらいありますか。	311		321	52	
60.2			(中)学習の時間が増える					
60.2	+2.1	-4.9	平日（月曜日～金曜日）に、学校の授業以外に、1日にどのくらい勉強していますか。	80	137	183	135	62 104
71.6			(中)失敗・成功を自ら振り返るようになる					
71.6	+3.0	+1.2	テストの後に自分で振り返りをできていますか。	196		276	168	
			(中)成功・失敗経験を次に活かせる					
77.6			(終)基礎学力が身につく					
83.7	±0	+6.7	一年間、この学習会・居場所に通ったことで勉強が分かるようになったと感じますか。	321		317	50	
71.4	-0.6	±0	あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。	137		369	153	
			(終)自己管理能力の獲得					
			(中)自分を認めてもらえる感覚の獲得					
85.8			(中)他人との信頼関係を築く					
81.3	+4.6	+2.0	周りの人に自分の気持ちや状況を素直に伝えていきますか。	317		268	91	
90.2	±0	-2.5	「ありがとう」や「ごめんなさい」を相手に伝えることができていますか。	462		214	11	
75.9			(中)困った時、助けを求められる					
75.9	+2.5	+3.7	困ったときに、人に相談することはどれくらいありますか。	242		288	125	
79.3			(終)困難な状況でも前向きに取り組むことができる					
79.3	+4.4	-0.4	困ったときや失敗したときでも前向きに取り組むことができていますか。	274		301	98	
81.0			(中)自分の強み・弱み分かる（自己理解が進む）					
81.0	+4.9	-3.3	自分の長所・短所、両方ともを理解していますか。	301		290	86	
			(中)自分の進路について考える					
79.9			(中)自分のやりたいことが見つかる					
79.9	+2.5	-0.4	将来やりたいことがありますか。	350		196	97	
82.2			(中)自分が興味を持ったことについて探究できる					
82.2	+3.8	-0.4	気になったことを自分で進んで調べることができていますか。	334		260	81	
73.1			(中)目標設定ができる					
73.1	+7.9	+5.3	学習に取り組むときに学習時間と学習内容を定めることはどれくらいありますか。	200		304	141	
			(中)目標に向かって行動できる					
73.3			(終)主体的に進路の選択ができる					
73.3	+6.1	+1.3	高校卒業後の進路について、どのように考えていますか。	349	20	150	46	136
73.3	+2.5	-1.2	(その他)大人になることは楽しみですか。	238		259	121	

【学習会での経験】

場の獲得と人との出会い

学習会での経験の指標では「応援してくれる人に出会う」93.7、「安心して過ごせる場の獲得」90.7、「分からないところの指導を受けられる」90.8、「学習に向かえる環境の獲得」89.9と高評価でした。一方、「成功・失敗を振り返る機会」74.4と他に比べて低い結果でした。

《凡例》※個別に記載があるものはそちらを参照



ポジティブ ← → ネガティブ

n = 701

今回	アンケート項目	0% 25% 50% 75% 100%				
89.9	(直) 学習に向かえる環境の獲得					
89.9	あなたにとって学習会・居場所は勉強しやすいところですか。	446	231	19		
90.8	(直) 分からないところの指導を受けられる					
90.8	学習会・居場所で、分からないことを分かりやすく説明してもらうことはどれくらいありますか。	484	186	21		
80.7	(直) 効果的な勉強方法を学ぶ					
80.7	学習会・居場所で、自分に合った勉強方法を教えてもらうことはどれくらいありますか。	294	299	82	25	
74.4	(直) 成功・失敗を振り返る機会					
74.4	学習会・居場所で、定期テストの結果について振り返る(ふりかえる)ことはどれくらいありますか。	243	266	123	63	
90.7	(直) 安心して過ごせる場の獲得					
90.7	あなたにとって学習会・居場所は安心してすごせるところですか。	468	208	24		
93.7	(直) 応援してくれる人に出会う					
94.0	学習会・居場所スタッフやボランティアの人は自分の話をよく聞いてくれますか。	550	138	8		
93.4	学習会・居場所スタッフやボランティアの人は自分のことを応援してくれますか。	538	145	14		
83.3	(直) 新しい価値観、情報の獲得					
86.0	学習会・居場所スタッフやボランティアの中で、尊敬できる人はいますか。	391	245	47	8	
87.7	学習会・居場所スタッフやボランティアの人から新しい情報をえられていますか。	401	264	28		
82.2	学習会・居場所スタッフやボランティアの人からその人自身の話を聞くことはどれくらいありますか。	299	317	74	11	
77.1	普段得られない体験をすることはどれくらいありますか。	181	213	98	20	n=512
77.3	(直) 進路相談できる場の獲得					
86.0	学習会・居場所スタッフやボランティアの中で、進学や将来について相談できる相手はいますか。	387	250	49	5	
77.8	いろいろな仕事についての情報を得ることはどれくらいありますか。	166	233	77	17	n=493
68.2	学習会・居場所で、奨学金(しょうがきん)の情報をえられていますか。	182	212	120	117	n=631

ロジックモデルアンケート自由記述

- 3年間ありがとうございました。何でも相談できる環境で居心地最高でした。夢を叶えられるようにこれからも頑張ります！
- スタッフさんとボランティアさん面白い方がたくさんいて毎回塾が楽しみです。スタッフさんとボランティアさん、いつもお仕事お疲れ様です!!これからも面白い話しが聞きたいです。キッズドアは唯一安心して居ることができて大好きです。
- いつも丁寧に勉強を教えて下さったり、楽しく雑談をして下さってありがとうございます。この教室で様々な経験が出来ていつも感謝しています。これからもよろしく願います。
- いつも、相談にのってくださる方のおかげで、楽しく学校生活が送れています。ありがとうございます！
- いつもわかりやすく英語を教えてくださいありがとうございます。おかげで前よりもっと英語を好きになる事ができています！
- いつも丁寧に教えてくださりありがとうございます。前は授業の中でわからないことをほったらかしていたがキッズドアに通うようになってからはわかることも増えテストでも点数上がっていると実感することもできました。これからもよろしく願います。
- いつも分かりやすく勉強を教えてくださいありがとうございます！勉強は得意ではないですが、キッズドアにきてボランティアさんと話したりするのは一週間の楽しみになっています！よくいろんなことを私と話したりしてくださってありがとうございます！
- いつも勉強を教えてくださいだけでなく、悩みや雑談なども一緒にしてくださってありがとうございます。おかげさまで友達もでき、リホップにいるときはとても安心して楽しく過ごせています。リホップはとても温かみを感じられる場所だと思っております
- 体も心もリラックスできる場所を提供してくださり、ありがとうございました！いつも優しく、明るい皆さんに報われました！勉強嫌いだった私は、ここに通い始めて好きになった科目ができ、そのおかげで視野が広がり、夢も見つかりました！本当にありがとうございます！
- 理系科目の質問などした時、分かりやすい回答をしてくれるので心強いです。また今年には季節のイベントが多くて、他の高校生と仲良くなる機会があったのが良かったです。それから、音楽の話やKPOPの話と一緒にしてくれてありがとうございます。めちゃくちゃ楽しいです。

3-4.体験活動・キャリア教育

体験格差の解消の重要性が増しています

生成AIの出現など社会が大きく変化する中で、教育に求められるものも大きく変わっています。0から1を生み出す人材を作るためには、子どものときに様々な体験をすることが大変重要です。家庭環境により体験活動にも大きな格差が生じており、それが子どもの学力形成にも影響しています。

私たちは従来の教科学習に加え、多様な体験活動やキャリア教育の機会を提供しました。

Project Based Learning への取組

新しい学びの形として注目が集まるPBL(Project Based Learning 課題解決型学習)に取り組んでいます。

2022年度は、女子中高生を対象にしたITスキルを高めるプログラムや、プレゼンテーションスキルの向上とキャリアトークを組み合わせたキャリア教育プログラムなど、新しい取り組みを開始しました。これらの取り組みは、企業や他団体と連携して実施し、大きな成果をあげています。

キャリア教育や体験活動は、住民税非課税世帯などの従来の困窮家庭に加えて、年収600万円以下の家庭にも対象を拡大しました。大学入試が、一般型から総合型選抜などの推薦入試中心へと変化する中、PBLのニーズも高まっています。

体験活動・キャリア教育プログラム

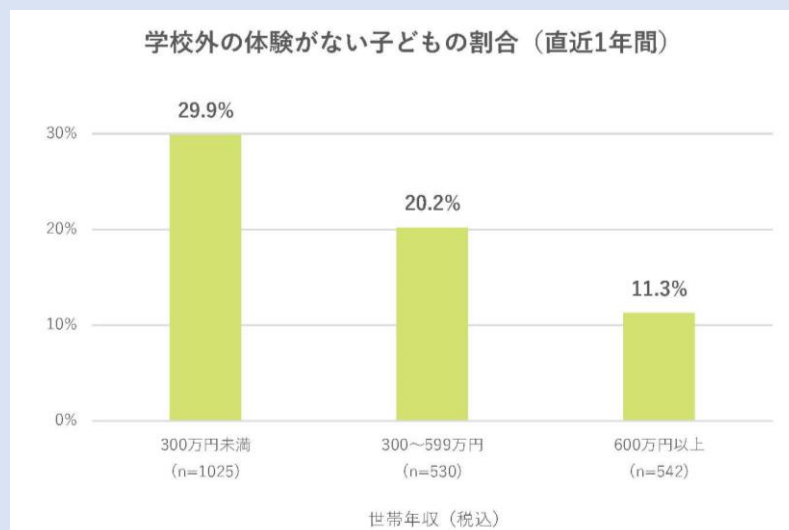
総参加人数 **4,470人**

総実施回数 **262回**

Project Based Learning

- 女子中高生のIT&デザイン教育プログラム IFUTO (いふと)
- キャリア教育プログラム Step for Tomorrow

参考



公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン 子どもの体験格差実態調査 2023年7月

3-5. ファミリーサポート事業

日本全国の困窮子育て家庭の3000世帯超のデータベース

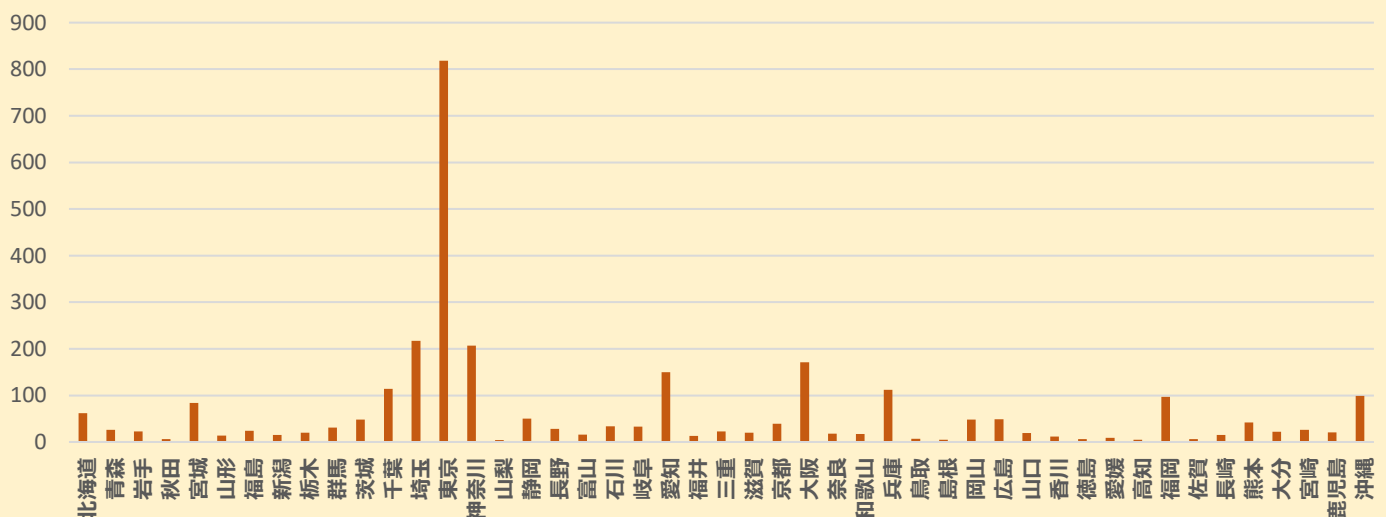
ファミリーサポート事業は、2020年コロナ禍によって経済的にさらに厳しい状況となってしまった家庭を緊急支援する「コロナ災害支援」として発足し、現在も継続しています。支援の柱は、食品や文具などの物資支援、奨学金や行政の給付金などの情報を届ける情報支援、より生活を安定させるための就労支援です。

また、登録ご家庭には膨大なアンケートにご協力をいただいています。アンケートの回答率は大変高く、迅速に困窮子育て家庭の厳しい状況やニーズをレポートにまとめ、アドボガシーやロビイングに活用することで、2022年度も困窮子育て家庭への一人5万円の給付など、大きな成果につなげました。

登録世帯数 **3,142世帯** 子どもの数 **5,363人**



ファミリーサポート登録世帯数



3-6. 就労支援事業

子どもの貧困の根本的な解決に向けて、就労支援を行いました

寄付を集めて、食料や物資を送り続けることは限界があります。「あとちょっと、1～2万円収入が増えれば、こんな酷いことにならなかったのに」と常に感じています。教育格差の解消、子どもの貧困解決には、シングルマザーの収入を増やすことは、避けて通れません。2020年より始めた就労支援を、今年も継続しました。

オリジナルの就労支援プログラム「わたしみらいプロジェクト」はリアル開催と、動画視聴のコースを実施しました。ロジックモデルアンケートの評価では、良い変化が出ており、これを収入増に結びつけるべく、企業とのマッチング等に力を入れるために、有料職業紹介事業許可認定を受けました。

キッズドアオリジナル就労支援プログラム「わたしみらいプロジェクト」

「わたしみらいプロジェクト」は、子どもを持つ非正規雇用者等を対象とした無料のオンライン・寄り添い型の就労支援です。

各期、セミナー5回、メイク講座、メンターとの個別相談、企業相談会を実施しました。

2022年度開催実績

開催 **3期**・参加者 **128人**

わたしみらいプロジェクトを経て就職した人数 **8人**

(※2023年3月時点 企業相談会参加企業：2人、その他一般企業：6人)

- ・ 受講をするまでは、日々の生活と家族の為に自分自身は後回しになっていました。そして年齢や持病の事スキルのない自分へ自信を持つ事もできませんでした。プログラムは自分を見つめ直し『私』も大切な存在であると気づきを与えてくれました。これは私にとってとても大きな変化になり、一步を踏み出す事ができました。そのおかげで現在は、小学生の進学塾でかわいい生徒さん達と学んでいます。キッズドアと講師の方々に感謝しかありません。ありがとうございました。

プログラム共同開発者 株式会社Will Lab 代表取締役小安美和

「わたしみらいプロジェクト」は、子育てしながら収入向上したい方（主に女性）を対象に、自己肯定感を高め、学び直しや就労などに向けて一步踏み出すマインドを醸成するプログラム。採用ニーズのある企業とのマッチング創出にも取り組んだ結果、「子育てしながら稼げる求人」が少ないことが課題として見えてきました。今後は、求職者のマインド醸成に加えて、採用ニーズのある企業とともに、「稼げる求人の創出」にも取り組めたらと思います。



3-7. ボランティア

2022年度も多くのボランティアにご参加いただきました

コロナ禍が収まり活動の機会が増えた結果、ボランティア参加人数は、対前年150%と大きく伸びました。学生が1/4、社会人ボランティアが3/4と社会人の参加が増えました。20代が33%で最も多く、30代、40代、50代が15%前後となりました。

ボランティアの参加理由は、子どもの貧困問題や居場所づくり、学習指導などに興味があるが上位でした。

オンライン学習支援の拡大に合わせて、オンラインボランティアも増え、アメリカ、台湾、中国など8カ国から参加いただきました。

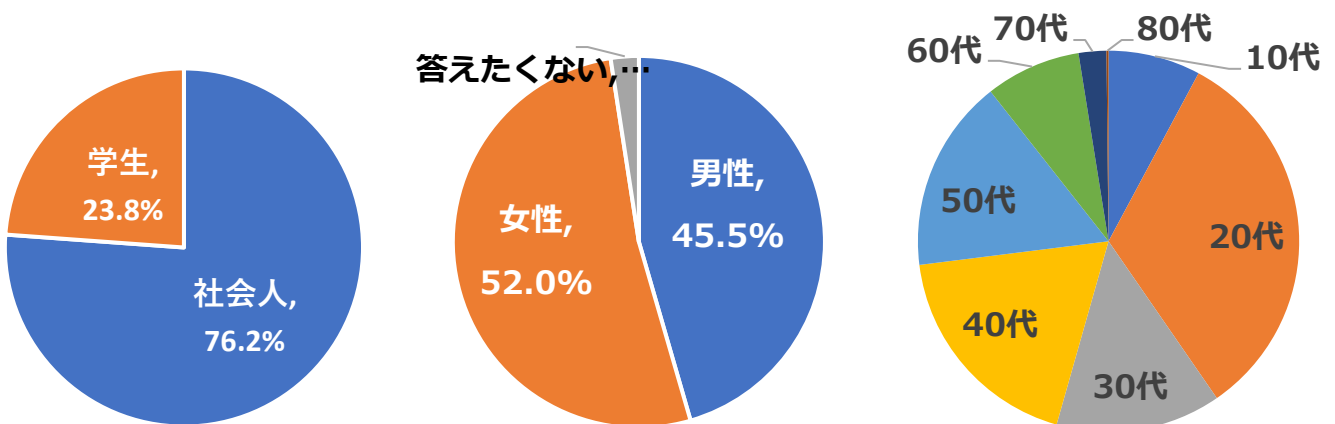
ボランティア参加人数

1,384人 (対前年150%)

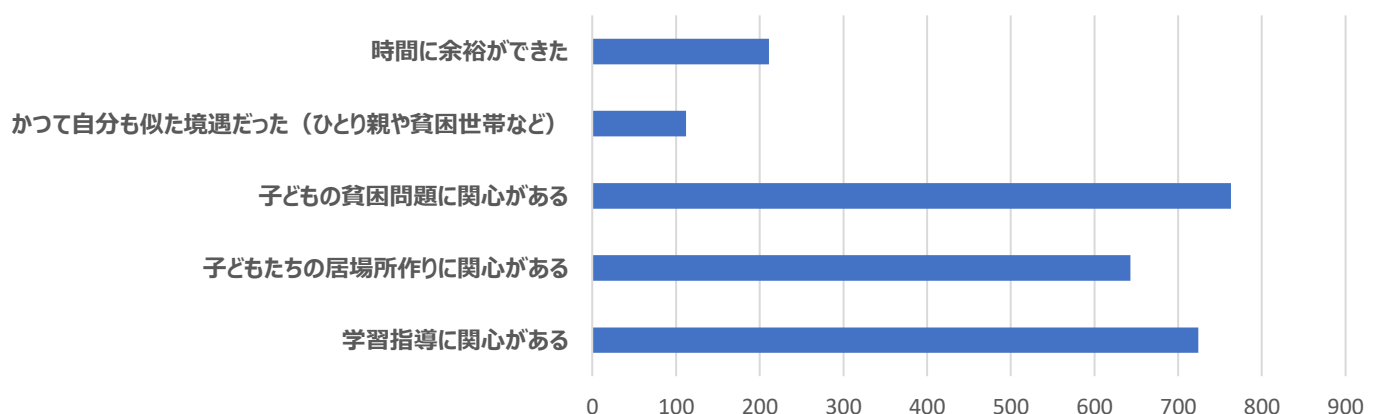
* 各学習会より収集した2022年度のボランティア参加人数の合計。(様々なボランティア)

ボランティア内訳

* 2022年度ボランティア名簿に登録している1149名の登録情報より算出



ボランティアに参加した理由



4. 間接的な支援

4-1. パートナー支援事業

支援の担い手を増やすための活動をしています

キッズドアでは、自らが行う支援に加え、子どもを支援したいと考えている全国の団体に対し講演や研修等を行うことで、より広く支援が行き届くようにサポートをしています。2020年以降、ボランティア活動や生活困窮家庭の子どもへの支援に関心のある全国の団体向けにキッズドアがこれまで培ってきたノウハウを伝える研修を実施してきました。

また、ノウハウ提供に加え、伴走支援を行っています。中間支援団体として、団体への資金提供も開始しました。支援内容としては、学習支援のノウハウや学習会を運営するための知識共有を行う「子どもを支援する担い手を育てる活動」、助成金を分配するとともに各他団体での事業推進を伴走して支援する「担い手の支援活動をサポートする活動」、日本の子どもの現状や学習支援の必要性を周知する「担い手を増やすための認識を高める活動」を実施しました。

(1) 研修事業 子どもを支援する担い手を育てる活動

① 学習支援者スキルアップ研修

子どもへの学習支援を行う団体や団体の職員に向け、基礎講座として「学習支援者スキルアッププロジェクト」を実施しています。

■ 基礎講座「学習支援者スキルアッププロジェクト」

2020年より三菱商事にご支援いただき、日本全国の学習支援を行っているNPOやこども食堂、社会福祉協議会などに研修を行っています。すでに129団体210人が参加しました。研修終了後1年から1年半後には、その地域で研修の成果も含め活動状況を報告する「成果報告会」を開催し、地元での団体のキャパシティビルディングをサポートしています。また、参加団体をネットワーク化し、継続的な支援や助成金情報などを提供し、地域で支援が受けられる子どもの数を増やしています

<実施期間>

2020年12月～2024年9月

<主な内容>

- ・子どもとの接し方や学習支援に関する基礎的な研修
- ・研修参加1年後の成果報告会
- ・現地視察（活動へのフィードバック）

新たな「担い手」「ボランティア」養成人数(2020年～2023年3月)

延べ **779人**

研修に参加した人数 210人

間接的に支援した子ども 783人

ネットワーク団体数 129団体

ボランティア 541人

公式LINE登録者 101人

研修内容共有人数 192人

1年の情報発信件数 47件

4-2. コレクティブ・インパクト支援

子どもの貧困解決のために、企業・行政・NPO等と協働しています

キッズドアでは、企業や行政、他のNPO等の他団体との協働を進めています。複数の団体が力を合わせ、それぞれの得意とする分野のノウハウ・リソースを活用することによって、キッズドアだけでは解決できなかった課題に取り組むことが可能となり、社会的にも大きなインパクトを生み出すことができました。

姉妹団体の認定NPO法人キッズドア基金が実施したゴールドマン・サックス大学受験給付型奨学金では、ゴールドマン・サックスから奨学金の資金や社員によるボランティア活動の協力を受け、キッズドアが受給生への受験までの伴走支援を担当し、500人近い受給生が大学等への進学を実現することができました。また、本事業で見えてきた受験料等の支援の必要性を社会に広く発信していく中で、こども家庭庁から、低所得世帯の受験生に受験料補助を実施していく方針も発表されました。

文京区こども宅食プロジェクト（東京都文京区）は、食品を届けるというアウトリーチ手法によって、経済的な理由から孤立しがちな困窮子育て家庭とつながる試みです。食料支援ノウハウを持つキッズドア、各家庭の情報を把握する自治体、食品の梱包・配送を行う企業、協力企業開拓や広報を担うNPO等の複数組織が関わることで、食料支援だけでなく、困窮家庭のニーズに即した情報や体験機会の提供といった幅広い支援が実現しました。

子ども宅食について利用者の約9割が満足し、社会とのつながりを感じる、安心して生活できているといったポジティブな変化が見られました。

(1) ゴールドマン・サックス大学受験給付型奨学金 (運営主体：認定NPO法人キッズドア基金)

奨学金支給総額 **7,875万円**

受験応援金5万円 **581人**

入学準備金10万円 **497人**

大学等進学者数 **497人**

受験関連情報のLINE配信 **30回**

受験勉強や奨学金に関する情報、イベント案内等

* 2024年度より、国の施策として低所得家庭の高校3年生と中学3年生に受験や模試にかかる費用を補助する方針が決定（こども家庭庁）

(2) 文京区こども宅食プロジェクト

食品の配送 計**7回** 延べ **4,854世帯**

体験機会の提供 延べ **722世帯**

情報提供 **38回**

* 2021年10月～2022年9月までの数値

4-3. 政策提言

積極的な活動を行い、大きな成果を出しました

調査室の設置により、的確なアンケート調査を迅速に実施し、レポートを政府や政治家に届けました。記者会見も積極的に行い、多くのメディアに取り上げていただくことで、低所得の子どもへの一人5万円の給付金や、高等教育の修学支援新制度（給付型奨学金）の所得制限の緩和を実現しました。少子化対策への発言の機会もいただき、児童手当の18歳までの延長につながりました。

調査**12回** 講演会

座談会等**24回**

記者会見・ロビイング等**8回**

メディア掲載 **181回**



岸田総理（左から3人目）、内閣府小倉大臣（当時、同4人目）、キッズドア理事長渡辺（同5人目）

【2022年度以降に実現した施策】

○令和4年度低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金

- ・ 児童扶養手当受給者等低所得の子育て世帯が対象。児童一人あたり一律5万円給付
- ・ 予算額は2,043億円

○高等教育の修学支援新制度 年収上限引き上げ

- ・ 2024年度から以下に該当する年収600万円までの世帯も対象に。
- 多子世帯（扶養する子ども3人以上） - 私立理工農系の学生のいる世帯

○高校生までの児童手当支給期間延長

- ・ 高校生一人当たり月額1万円支給の方針
- ・ 2024年度中の実施を検討



文部科学省政務官に大学進学機会の公平性確保について提言（右から鰐淵政務官（当時）キッズドア理事長渡辺、キッズドア基金松見代表理事）



記者会見「物価高騰の影響把握調査報告と、子どもの命と将来を守るための緊急提言」（左からキッズドア理事長渡辺、調査室室長田中）

5. ガバナンス・内部統制の強化

すべてのステークホルダーからの信頼を得るために

キッズドアは、2021年10月に東京都から認定を受け認定NPO法人となりましたが、認定NPO法人として今後も信頼に足る団体であり続けるためには、組織拡大に耐えるガバナンス・内部統制の強化が必要となります。

ガバナンス・内部統制の強化は、法人運営の透明性や公正性を前提に、法人の価値を増大させ、持続的成長を可能にするための仕組みです。



(1) リスクマネジメントおよびコンプライアンス体制の強化

リスク外部評価の実施

企業等のリスク評価やコンプライアンスに関する支援等を専門に行うインテグリティ総合研究所合同会社に委託し、2021年の下半期から、団体の活動全般にわたりリスク評価を開始しました。

インテグリティ総合研究所合同会社

コンプライアンス&企業倫理コンサルティングサービスを提供。

代表の原誠一氏は、日本債券信用銀行、PwC Japan在籍時から、官公庁や大手金融機関向けにリスク管理態勢全般のコンサルティングを行っている第一人者。

リスクマネジメント委員会の設置

リスク評価において特定されたリスクを適切にコントロールするためのアクションプラン策定、進捗確認、および新たな業務等に対するリスク評価を行うリスクマネジメント委員会を2022年に設置しました。インテグリティ総合研究所にも同委員会に外部識者として参加、助言をいただきます。

コンプライアンス委員会の設置

コンプライアンス基準の強化、研修等を通じたコンプライアンスの徹底、コンプライアンス案件の早期発見・早期対応を行なう体制として2022年にコンプライアンス委員会を設置しました。同委員会にもインテグリティ総合研究所に外部識者として参加・助言をいただきます。

(2) 内部監査機能の強化

内部監査室の新設

2022年度、内部監査室を新設し、内部監査方針・計画の立案、実査、報告書作成等を行うことにより、内部統制機能の強化を図っています。

内部監査委員会の設置

同時に、社外理事を委員長とする内部監査委員会を設置し、執行部の外側から内部監査活動を指示・監督する機能を持たせます。

(3) その他のガバナンス・内部統制の強化への取り組み

- 2022年度より、監事体制を、弁護士1人、公認会計士1人の二人体制に強化しました。
- 2022年度より団体のHR戦略全般を議論・承認し、また業務執行の理事等の報酬水準の承認を行う「HR戦略・報酬委員会」を設置しました。社外理事が委員となり、外部の目で報酬の適正性等を評価します。
- 2022年度より、外部顧問弁護士に加え、インハウスロイヤーとして弁護士資格を持つ職員1人を管理部門に配置しています。

キッズドアの活動は、
みなさまからのご寄付によって支えられています。
無料学習会や体験活動を必要としている子どもやそのご家庭
に届けるため、ぜひ財政的なご支援をお願いいたします。



ご寄付について

月々1,000円から毎月一定額を継続的にご支援いただけます。
また、その都度寄付をすることも可能です。ウェブサイトから、
クレジットカードで簡単にお手続きいただけます。
<https://kidsdoor.net/support/individual>



税制優遇について

キッズドアにご寄付いただいた場合、税制優遇を受けること
ができます。詳しくはこちらをご覧ください。
<https://kidsdoor.net/support/>



認定特定非営利活動法人キッズドア

URL : <https://kidsdoor.net/>

e-mail : info@kidsdoor.net

東京 | 〒104-0033
東京都中央区新川 2-16-10 プライムアーバン新川 2階
TEL.03-5244-9990 FAX.03-5244-9991

東北 | 〒983-0852
宮城県仙台市宮城野区榴岡 3-2-5 サンライズ仙台 2階
TEL.022-354-1157 FAX.022-355-2071

キッズドア調査室
2023年11月8日発行